

# 夕張調査合宿・地域研修(オモテ版)

夕張市が財政再建団体入りを決断してから、様々な問題が明らかにされてきた。不適切な会計処理や、身の丈を超えた観光事業への傾斜、第三セクターによる財政負担・借金増、などなど。いずれももったもな指摘であり、その是正は不可欠である。だが自治体財政について門外漢である私には、一方で、腑に落ちないこともある。そもそも夕張の今日の危機は、石炭から石油へというエネルギー政策の転換の中で石炭資本が次々に閉山・撤退したことを背景にしている。しかも撤退の後処理が市の負担を増加させた。人口は急速に流出し、いまではピーク時の10分の1だ。そういう危機の中で、炭鉱から観光へというスローガンを掲げ、夕張は地域経済の活性化を目指してきた。国もそういった、リゾート開発や第三セクターの設立を推進してきたのであり、そのことを踏まえた上での責任の追及がなされる必要がある(行方久生「自治体破綻制」の危険度」『地方自治職員研修』2006年8月号)。つまり、財政破たんというこの問題は、歴史的、構造的に把握されるべきではないだろうかと門外漢ながらに思うのである。夕張での調査合宿は、今年で3年目を迎えた。危機的状況にあるとされる夕張で学生諸君は何を学んだのだろうか。その成果は、後期に開催される地域研修発表会で報告予定である。この「通信」では、地域研修の状況を簡単に報告する

## 【夕張調査合宿・地域研修の行程表】

### 8月31日(木)

11:20 大通西3丁目南側出発(夕鉄バス)  
13:30 夕張高校にて、卒業生の進路、若者の雇用・労働の状況、高校での取組みについて学ぶ。  
16:30 宿泊所・ひまわりに到着。

### 9月1日(金)

10:00 ハローワーク夕張にて、夕張管内の雇用状況に

ついてレクチャーを受ける

14:00 本町商店街店舗にて聞き取り。三班に分かれ、食品小売店、玩具販売・軽喫茶店、理容店を訪問。  
16:00 夕張市役所で、市職員労働組合から、財政問題、市職員の雇用・労働や地域住民の生活悪化の問題についてレクチャーを受ける。

### 9月2日(土)

石炭の歴史村で遊ぶ。

いざ行かん、夕張へ



いざ出発。全力で学び、全力で遊ぼう!(テレビ塔下)

経済学部 地域経済学科では、「地域研修」という授業を開講している。私は経済学科所属の教員だが、毎年夏に

は、学生と調査活動を行っているので、調査合宿兼地域研修というかたちでこの授業を担当している。今年も研修先は夕張である。夕張行きはこれで3年目になる。今年例の、夕張市の財政破たんが明るみになったこともあり、現地の受け入れは難しいことが予想されたが、「むしろ学生さんに現状をみてもらい、多くを学んでもらいたい」という関係者の温かいお言葉があり、今年も夕張での研修を決めた。

### 地域研修とは(シラバスより)

地域研修は地方公共団体や民間経済団体等の協力を得て実施される研修で、現地では(1)地域経済(産業)・社会の動向把握、(2)現実の生活環境の実地見聞、(3)地域づくりの実態把握、(4)地域(国際)交流等についての学習が行われる。その目的は、机上の理論と現実との間隙を埋めるべく「生きた」地域経済・社会についての現地体験と学内での学習とを総合し、もって地域経済のかかえる

諸問題を解決するための糸口を主体的に追求する資質を涵養するとともに、地域づくり(「マチづくり」「ムラおこし」)に寄せる地域住民の熱意に学ぶことに置かれる。



夕張到着！(夕張高校へ向かう途中)

夕張高校で地方の若者の就職状況を学ぶ  
初日は、昨年に引き続き夕張高校へ。私達のゼミのメインテーマである若者の雇用・労働について、地方(旧産炭地)の状況はどうであるのかを学ぶことが目的である。ご担当の先生から、レジュメにもとづいて、貴重な話が流れるように飛び出してくる。卒業生の進路状況、就職活動の流れと学校側の支援体制、最近の就職・就職先の傾向、就職後の動向、等々。札幌で暮らしているとなかなか想像できない状況についてのお話に、学生らはガシガシとメモをとりながら真剣に耳を傾けていた。



地方の就職状況は厳しいなあ(夕張高校にて)

お話の中でとくに私に関心をもったのは、これは夕張・

旧産炭地に限らず全国的な動向でもあるが、契約社員など非正規での採用が増えていることや就職先の労働条件の水準が低下していること、である。加えて、まだ具体的な影響こそ表面化していないとはいえ、今回の財政再建団体入り(財政破たん)が、生徒の進路状況に否定的な影響を与えることが懸念されるということだ。もっとも、そういう厳しい中でも学校の先生達による様々な取組みは、私達大学関係者も大いに学ぶべきものがあった。その一つは、私自身もその必要性を強く感じていることだが、離職を前提とした「先取りの離職後指導」そして、ハローワークとの連携などである。高校の先生達の取組みに頭が下がる思いだった。

今年の宿泊所は「豪華」に



合宿にお薦め！(ひまわり)

夕張高校を後にして、宿泊所へ。質素な(すねかじりものの)私達の宿泊所は、例年通り、廃校を改築した施設。但し今年は、例年利用してきた「ふれあい」が満員だったので、「ひまわり」へ。「ふれあい」よりも1泊につき1000円ほど高いと聞いてはいたが、内装や部屋の豪華さ(クーラーつき!)にビックリ。お風呂場も大変ひろくて、きれいで、しかも石鹸も備え付け(!)で大満足だった。聞いたところによれば、財政破たんの影響で、「ふれあい」は今年でもって取り潰すことになったとか。残念ではあるが、来年からは、この豪華な「ひまわり」を利用させていただくことにしよう。



歓迎の札も（ひまわり玄関）



今日は疲れたな。めいっパイ、食べよう（ひまわり食堂）

ハローワーク夕張へ



2日目も気合入れていきます（ひまわり玄関にて）

2日目の最初の訪問先は、ハローワーク夕張。うかつに

も、ハローワーク夕張が千歳の出張所になっていたことを知ったのは前日の夕張高校訪問においてだった。組織再編・縮小がストレートに問題になるわけではないとはいえ、高校側としてもハローワークの連携を強化しようとしてきただけに、やはりその影響が懸念される場所である。



昨日に引き続き、雇用・失業問題を学ぶ（ハローワークにて）

ハローワークでは、夕張管内の雇用・失業情勢や、今回の組織再編にともなう影響などについてレクチャーを受けた。ハローワークでの後半の話もやはり、具体的な影響こそまだ発生していないとはいえ、市立病院や第3セクターでの雇用が将来的にどうなるのかなど、自治体財政破たんとの関連で雇用・失業の深刻化が懸念される内容だった。ところで、余談だが、在学時代にこうしてハローワーク訪問の機会を学生に提供しておくことは、それこそ「先取りの離職後指導」（夕張高校）にもなるなあとあらためて思った。学生諸君、就職後に万が一離職した際にはハローワークの扉を叩くのさぞ。

商店主が生きてきた夕張

続いては、今回の夕張訪問の新しい試みである、商店訪問である。夕張で暮らし商店街で長く商売をされてきた方達は、今回の夕張の問題をどう把握しているのだろうか、ご本人のライフ・ヒストリーと重ね合わせながらお話を聞きましょう。あわせて、いま地方では商店街が次々にシャッター街・通りになっており、夕張もその例外ではない。そういう中での商売の状況や今後のことについてもお話を聞こうではないか、以上が今回の取組みの問題意識である。



自分達のみで頑張ってこい（石切神社前の坂にて）

この取組みでは、私はノータッチだった。学生を三つの班に分け、各班に手土産を持たせて、あらかじめ承諾をいただいていた三店舗（食品小売店、玩具販売・軽喫茶店、理容店）に送り込む、ここまでで私の仕事は終了とした。前日に指導をしていたとはいえ、ダイジョウブかなと少々不安を感じながら、待つこと30分。各店舗へのご挨拶を兼ねて、学生の聞き取りの様子を確認しにまわったが、店主の方々のご協力で、学生らによる聞き取りは、思っていた以上にうまくいっていたようである。



学生だけでのはじめての聞き取り。少し緊張気味？（理容店）

商店主の方々からどんなお話を聞いたのかをここで詳細に述べる余裕はないが、有難かったのは、この合宿で私が学生達に学んで欲しかったこと、すなわち、夕張の現在の財政破たんの問題を考える際に、エネルギー政策の転換、石炭資本の撤退という歴史的な把握が必要であることを、語

ってくださったことである。お話の中では、石炭資本の撤退のあり方がいまでいうところの「企業の社会的責任」を果たさないようなものであったことも指摘されたという。マスコミ等では必ずしも十分に報じられていないことであり、あらためて検証がなされるべきことだろう。



談笑。顔が少しゆるみ過ぎでは？（玩具販売・軽喫茶店）

また、非常に有難かったのは、学生らに対して、夕張だけでなく旧産炭地や地方の財政が共通してなぜか厳しいのかを考えてもらいたい、という課題を出してくださったことである。学生諸君、頑張っこの課題に取り組み続けよう。



学生のみなさんにぜひ考えてもらいたい（食品小売店）

今年の締めは市役所労組  
例年は、2日目の最後は市役所で職員の方から財政問題を中心にレクチャーをいただくことにしているのだが、今年は、趣向を変えて市役所労組から話を聞くことにした。夕張では、財政破たんの影響で、市役所で働く職員

の雇用・労働条件が悪化している。賃金の引下げはすでに決定したことだが、今後、臨時職員の雇い止めや市立病院での全員の解雇などが言われている。労働組合はそれにどう対応しようとしているのか。また、一般的には労働組合は自分達の労働条件を向上させることを目的とした組織とされているが、財政破たんを背景にした地域住民サービスの低下、負担の増加が予想されることにはどう対応をするつもりなのか。そして、そもそも今回の夕張の財政破たんについてその背景などをどう把握されているのか、聞きたかった。



夕張はどうなってしまうんだろう（組合事務所にて）

お話は夕張の現状の詳細から、財政悪化に拍車をかけた「三位一体改革」という大きな話にまで及んだ。市職員のリストラ、地域住民生活の悪化など、今後懸念される事態も含めてお話いただいた話の内容は、学生には少々重た過ぎたようで、後で聞いたところによれば、「こんなこと聞いてもいいのかな」と考えていた学生も少なくなかったようだ。たしかにキツイ話ではある。だが私達はそういう現実から目をそらすことなく、事実は事実としてきちんと把握しなければならない。その意味でも、財政破たんが地域住民の生活にどれだけ深刻な事態を引き起こすのかを聞くことができたのは貴重な機会だった。マスコミの流す情報を集めるだけでなく、自分達で直接調べるといった習慣を大事にしていきたい。

#### 石炭の歴史村へ

全力で学んだ後は、全力で遊ぶ、これが私達のゼミのモットー。2日目の夜は飲み会で語り、そして3日目は遊園地（石炭の歴史村）で全力で遊んだ。飲み会で一番飲んでたのも、遊園地で一番張り切って遊んでいたのも

私という噂もあるが、そのあたりは、「通信（ウラ版）」で報告することにしよう。それにしても、今回私達が訪れたこの石炭の歴史村（第3セクター）で雇われている方々は今後一体どうなるのだろうか。毎年利用していた食堂もすでに閉鎖となっていた。



石炭の歴史村の行方は（歴史村入り口にて）

財政破たんの影響を受けて、遊園地のローラーリージュが8月31日で閉鎖されていたことは非常に残念だったが、代わりにジェットコースター等を心ゆくまで満喫し、昼過ぎには札幌へ。帰りはみんな爆睡。お疲れ様。

さて、後期には地域研修発表会が開催される。発表会では、ただ「夕張に行ってきました」だけではなく、夕張で何を学び、自分達なりにたどりついた結論も含めた報告をしてもらいたい。大変だろうが、再び、全力で学ぶモードに切り替えだ。



地域研修発表会での報告に期待しているぞ（合宿解散）